

第1回 川越市総合教育会議 議事要旨

1 開催日時 平成29年7月18日(火) 午前10時00分～午前10時55分

2 開催場所 川越市役所7階 第5委員会室

3 出席者 川越市長 川合善明
教育長 新保正俊、 教育長職務代理者 梶川牧子、
委員 長谷川均、 委員 長井良憲、 委員 黒田弘美

4 会議の概要

1 開会

2 挨拶

本会議は、首長と教育委員会が教育政策の方向性を共有し、一致して推進するために設けられたものであり、昨年度は、具体的な本市の教育課題について意見交換を行った。

本年度もまた、「川越市教育大綱」の基本理念として定めた「生きる力と学びを育む川越市の教育」のもと、子どもたちが地域社会の中で生まれ、たくましく生き抜く力を身に付けられるよう、当会議の中で皆様と一緒に議論を深め、協力して教育環境を整えていきたい。

3 協議事項 (●・・・市長 ◎・・・教育長 ○・・・教育委員 ▲・・・事務局)

(1) 新学習指導要領等について

- 「新学習指導要領」は、平成29年3月に公示され、小学校では平成32年度から全面実施、中学校では平成33年度から全面実施することとなっている。本年度が「新学習指導要領」の周知・徹底期間と位置づけられていることから、今年度の第1回総合教育会議の協議事項の一つとして、「新学習指導要領」に関連した意見交換を皆さんと行いたい。ただ、その内容は多岐にわたるため、本市にとって重要な事項について、いくつか取り上げながら進めていきたい。

《伝統や文化に関する教育について》

- まず、「伝統や文化に関する教育について」取り上げたい。昨年12月に「川越氷川祭の山車行事」がユネスコ無形文化遺産に登録された。豊かな文化遺産が残る本市において、伝統や文化に関する子ども達への教育は重要であると感じている。そこで、この点について皆さんのご意見をいただきたい。

○ 自分の伝統と文化、相手の伝統と文化を知ることが大切である。

伝統、文化、歴史を学ぶことは、人間として自分自身のヒストリーを学ぶということになる。自分自身に価値観とか信頼感を持つことは、その子のパーソナリティやナシ

ヨナリティ、アイデンティティの確立に大きくつながっていくように感じる。川越市にあるたくさんのお祭りや文化財などを学んでいくことが、教育大綱の生きる力につながり、個人個人が生き生きと活躍できる礎になるのではないか。

一方で、相手の育った伝統や文化にその人の意見が根ざしていることも多いので、グローバルな社会に変わってきている中、相手の伝統や宗教などの文化を学ぶことも大切である。

今後は、現在の読書活動をさらに深め、相手の文化や自分では体験できないことを疑似体験として読書活動の中で学んでいって欲しい。

- 我々が小中学生であった頃は、地域の伝統や文化などを学校教育の中で学ぶということはほとんどなかったように思うが、最近では、副読本などを作って学んでいるのか。
- ◎川越市の生活や歴史などを小学校3年生で、埼玉県全体における地域学習を小学校4年生で学べるよう副読本を活用している。
- 世の中がグローバル化する中で、さらに地域の伝統や文化を学ぶ重要性が高まっているという主旨のご発言だったと思うが、他の委員さんはどのようなお考えがあるのか。
- 児童生徒が様々な体験を通して学んでいくということは大切なことだと考えている。具体的には、2020年に東京オリンピックのゴルフ競技が川越市で行われるので、これを機会に一流アスリートと児童生徒が触れ合える機会を作れば、大きな経験と思い出になると思う。それから、英語教育に関わることだが、英語はあくまでツールであって、やはり地元の文化、歴史をきちっと英語で語れるかどうかが一番大事なことだと思うので、英語教育と合わせて歴史、文化の教育に力を注いで欲しい。
- 一流アスリートと子ども達が触れ合う機会というのは、既に市で取り組んでいるような記憶があるのだが。
- ◎オリンピック大会室と連携して、中学校にアスリートを招き、体験的な学習を行っている。実際の実技を交えながら、アスリートのこれまでの努力や子ども達に望むことなどを話してもらっており、年間2、3校で行っている。
- では、そういう機会を増やしていくということですね。
- ◎さらに増やせればと考えている。
- パラリンピックの選手と小中学生が一緒に行く「アスリート・スポーツ交流会」が9月10日に川越運動公園で開催される。本当であれば、パラリンピックの選手が各学校に行き、これだけ頑張っているんだということをやりたかったのだが、諸事情により川越運動公園で開催することとなった。
- 川越まつりについてだが、せっかく伝統あるいい行事があるにも関わらず、私が住んでいる地区では、お祭りに参加するというよりも遊びに行くという感覚しかない。もし山車引きなどができるのであれば、もっと市の方で働きかけ、市内の子ども達みんながお祭りに参加できるような体制づくりをしていただきたいと思います。
- 川越市の狸々(しょうじょう)の山車を引く子ども達はどのように集めているのか。
- ◎山車のない町内の小学校の子どもに呼びかけて集めている。

●そういう形での参加もあるということですね。

◎もう少し数を増やしてもいいのではないかとも思うが、昨年聞いたところによると、一度にすべての学校にというのは難しく、年によって分けているとのことであった。

○他市や他県の方から、川越まつりは素晴らしいお祭りだと言っていたありがたいのだが、以前、非常に混んでいて山車にたどり着けなかったという話をよく聞いた。しかし、ここ数年で、山車にGPS機能をつけることで、山車の運行状況が非常に分かりやすくなったと聞いている。市は非常に良い取り組みをやったと思っている。また、どんどん機能が進化していくようなのでさらに普及していただければ有りがたいと思う。

《英語教育について》

●伝統や文化に関する教育についていろいろとご意見をいただいた。続いて、「英語教育」について取り上げたい。「新学習指導要領」では、小学校中学年では「外国語活動」を、高学年では「外国語科」を導入することとしている。次世代を担う児童の今後の英語教育について、皆さんのご意見をいただきたい。

○学校訪問で英語の授業をみる機会があった。子ども達は楽しそうであったが、tired, sleepyなどのネガティブワードが意外に多く授業で使われていたので、happy, fun, good, niceなどのポジティブワードを授業で多く使えばより楽しい授業になるのではないか。

今後、小学校で英語教育が始まるが、先生方には効率的で負担の少ない方法で英語のスキルアップをしていただき、授業中には、できるだけ英語を使うようにして欲しい。小学校の英語教育で特に力を入れることは、リスニングである。リスニングの方法はいろいろとあると思うが、学校の朝の時間、給食の時間などを利用し、毎日、継続的に英語を聞かせることによって、英語耳ができ、それが英語に親しんでいく下地になると思う。

小学校、中学校で英語が楽しいと思えるような環境作りをしていく必要があるのではないか。例えば、英語の掲示物を増やすとか、AET（外国語指導助手）などの英語が話せる人が常に学校にいるような環境作りをするなどが考えられる。

リスニングにしても環境作りにしても、ある程度、指針のようなものを作り、川越市全体で児童が英語を抵抗なく学習できるように進めていただければと考える。

学校で英検の申し込みや受験ができるようになれば、中学校でも英検の勉強をするようになるだろうし、学力向上という点からもよいのではないか。

●いろいろとご提言をいただいた。他にご意見はあるか。

○英検の受験料補助を考えてはどうか。他市では最初に受験をする際に、1回だけ補助を行っていることが多いようである。市として、英語力を高める具体的な施策を企画し実行していただきたい。

○業者の英語試験が大学の受験科目になる方向であるとの新聞記事を見た。英語は伝達のツールであり目的ではないが、最終的には受験英語につながってしまい、英語嫌いになってしまう。残念ながらそういう現状は否めない。

今度は外国の先生方が参画して、小学校中学年では発達段階を大事にした英語教育を行い、高学年では中学校につながる英語教育を行うことになる。川越は「英語の川越」というぐらいのプロジェクトを作り、子ども達の発達段階に応じた英語教育を2020年には、きちんとスタートできるようにしていただけたらと思う。

◎今の件だが、小学校は来年から2年間、中学校は3年間の「新学習指導要領」への移行期間が設けられているが、今、市立高校の英語科の先生にも協力をいただき、小、中、高の英語連携のカリキュラムを作っている。小学校では特に「聞く・話す」、中学校では「聞く・話す」に「読む・書く」をプラスして力をつけさせる、高等学校では特に「書く・話す」ことに特化したカリキュラムとする。それと、小学校での英語活動や英語教育を行う上での課題は、小学校の先生に英語力をつけることである。ただし、先生の中には小学校の免許と中高の英語の免許を持っている先生もいるので、そういう先生をうまく配置し、各学校の英語指導の中心にしていくとか、それからAETの確保、小学校における時間の工夫、1時間の授業だけではなく、毎日15分程度の時間を使い英語に親しむようなことをしていくこと、それから、民間検定の受験推進とその補助は避けて通れない課題かなと、そういうところを特に手厚くしていくことで、川越市の小中学校に関心を持っていただく方が市外から川越に移り住んでいただけるそのような可能性もあるのではないかなと思う。

○AETの「A」のアシスタントという意味は、先生のアシスタントということか。

◎先生のアシスタントであるが、本来は先生がついているのでAETが中心となって授業を進めても構わない。

○先生方は小さい子どもの指導がとても上手なので、小学校中学年ではアシスタントとしてAETを活用し、高学年ではAETが中心となって授業を進めてはどうか。

◎AETが単独で授業を進めることはできないが、先生がついているので、AETが主導で授業を進めてもいいのではないかなと思う。先生達も自分で授業をやろうという意識があるので、より効果的に活用ができるよう、AETの活用の仕方をさらに検証していく必要がある。

○小学校での英語向上は大事だが、その一方で、教員の負担になることも事実である。AETの確保や小中高連携の中などで、教員の負担軽減ということも併せて考えていって欲しい。

《情報教育について》

●英語教育についていろいろとご意見をいただいた。続いて、「情報教育」について取り上げたい。社会の情報化が急速に進展し続ける中、児童生徒が情報を活用する能力を身に付けることは重要である。本市における情報教育について、皆さんのご意見をいただきたい。

○スマートフォンやタブレットなどの登場で、情報教育はここ数年でとても変化している。先生1人につき、1台パソコンが配置されていると思うが、臨時の先生の分は足りていない。タブレット端末も不足している。ぜひ、各学校で1台でも多くの情報機器を導入して欲しい。また、学校の先生が文書をメール等でやりとりする場

合に市のネットワークを使うと大変だという話を聞いた。他市では負担軽減できるようなシステムがあるようなので、学校の先生が利用しやすいようなネットワーク環境の整備を進めていただければと思う。

- 情報教育については、遅れているという自覚はあるので、タブレットに限らず、パソコンの配置台数やパソコン1台当たりの児童生徒数など、県平均、全国平均になんとか追いつくようにと考えている。ネットワーク環境の構築については今後の課題である。
- ◎子どものパソコン台数やタブレットの台数、加配教員や臨時教員のパソコン台数が足りていない。今年から始まったサーバーシステムは、外と中とのやり取りに制限があるので、国とのやり取りの中で電話対応などがあると中断してしまい、業務の負担軽減からすると大変なところもあるようである。
- 分からないので教えていただきたいことがある。学校には統合型校務支援システムは導入しているのか。
- ▲統合型校務支援システムは導入していない。研究中である。
- 特別支援学校やハンディキャップのある子ども達への情報教育はどのように行っているのか。
- ◎インターネットを開く方法や検索などができるよう情報教育を行っている。
- 特別支援学校にも生徒用のパソコンは配置されているのか。
- ▲生徒用のパソコンを16台配置している。授業の中で、インターネットで調べる学習や就労に向けたタイピング練習などに活用している。
- ◎1学年16人なので、授業で使用すれば1人1台ということになる。
- 了解した。それと、情報教育の中で一番大切なのは、情報モラル教育であると思うので、ぜひ、子ども達に情報モラル教育を行っていただきたい。
- ◎情報モラル教育は、授業内での体験学習や講演会が中心となるが、計画的に行っている。

《学力向上について》

- 続いて、「学力向上」について取り上げたい。学力向上のためには、どのようなことが必要なのか、皆さんのご意見をいただきたい。
- 学力向上は最優先に取り組まなければならない課題であるので、学校にエアコンが整備されるのを機に授業日数の増加を検討してはどうか。
将来を担う児童生徒の育成には、学んだ知識を体験を通してどう使っていくのかが一番大切であると言われているので、授業日数が増加した場合には、その一部を体験授業に充てるべきである。
学力向上には、家庭学習における予習、復習が一番大切である。家庭でパソコンやタブレットなどを使用し、授業の予習、復習ができる仕組みを取り入れている近隣市もあると聞いたので、川越市でも検討してみたらどうか。
家庭で学習が困難な児童生徒や塾に行けない児童生徒に対し、退職校長会などの協力を得て、授業の予習、復習を目的とした放課後子ども教室を市民センターや公民館で

他市に先駆けて実施したらどうか。

- 川越市の学力テストの正答率は、全国平均を下回っている状況があるので、ぜひ今後、学力向上のためにいろいろな工夫をしていかなければと、教育委員会の先生方にも頑張ってもらわなくてはと思っている。
- ◎全国学力調査や県の学力調査のデータを分析すると、特に学力の高い学校には、特徴的な傾向がいくつかあった。一つ目は、教員の指導力。どの学校でも行っているが、授業のはじめに目的をはっきりさせ、終わりにまとめをしっかりとすることを特に意識して取り組んでいる学校。二つ目は、教職員が校外の研修を積極的に受け、その内容を校内で共有している学校。三つ目は、地域の人材を外部講師として活用している学校。四つ目は、子ども達に読書や主体的に家庭学習をさせている学校。今後は家庭学習に注目していきたいと思っている。
- 塾の影響はないのか。
- ◎効果が上がっている学校では、生徒が中学3年生になると主体的に塾に通っている傾向もある。中学1年生から塾に通っている子で、学校と塾の両方で消化不良を起こすということも聞いたこともある。学習規律や生活規律をしっかり身につけ、教員の指導力で児童生徒の学習効果を上げていき、その後、主体的に自分で勉強していくというケースが一番望ましいのではないかと考える。
- 学力テストの成績が全国で一番良いのは、秋田県であり、その理由は、祖父母が子どもの勉強をみているからではないかということを知ったことがある。家庭学習も必要なようだ。
- ◎今年も教育委員会の学力向上研究委員会が行っていることは、一つが、家庭学習の取り組み方、もう一つは、全国学力調査や県の学力調査の問題を分析したドリルを作り家庭学習に入れていく取り組みを行っている。やはり、家庭学習の力は大きい。
- 全国学力調査や県の学力調査の平均値は、よく説明していただかないと分からない。
- ◎通常は一つの山だが、分析してみると、できる子とできない子の二つの山になっている。それが少ない学校はやはり学力が高い。小学校と中学校が連携し、小学校の段階でいかに基礎学力をつけていくかが、この二極化の問題を解消する方策ではないかと捉えている。
- ◎学力を下げている原因の一つに、スマートフォンやゲームにかなりの時間を取られていることがある。スマートフォンの家庭での使い方についてリーフレットをPTA連合会と連携して作成し、保護者に配布したが、こういった取り組みも家庭と連携しながら行わなければならない。
- PTAに家庭教育学級があり、人権教育が必須であると思うので、情報モラル教育も保護者に対して必須にしていくと広がるのではないかと。

(2) いじめの未然防止等について

●続いて、協議事項2「いじめの未然防止等について」に移りたい。いじめの未然防止やいじめを重篤化しないための学校や教育のあり方について、皆さんのご意見をいただきたい。いじめの問題についてはこれまでもずいぶんいろいろ話をしてきており、教育委員会の中でも検討されてきたと思うが。

○いじめ問題は早期発見が一番大事である。教員や学校の役割が一番大きいので、業務負担を軽減することで、子どもの小さな変化を見逃さないようにする必要がある。教師間でいじめに対する認識がばらばらであるように感じるので、いじめの認識については、一人ではなく複数人の教師で判断する。学校も教育委員会や第三者機関を含め、やはり複数で判断していく。教育委員会も学校任せにしない。このような体制づくりが一番大事なのではないか。

スクールボランチの配置は、効果が出ていると聞いているので、できれば一校一人の配置が望ましいと思う。また、いじめは保護者が大事だと思うので、昨年保護者に対して命の大切さの話を市長と教育長にさせていただいたと思うが、ぜひ、一年に一回でも結構なので、一般の保護者に対しての啓発を続けていただきたい。

いじめにおいては、地域が大事だと思うので、開かれた学校作りの中でコミュニティスクールのモデル校を1、2校作って研究してみたらどうか。

○いじめは小さなことが積み重なって始まるのではないか。小学校の高学年あたりから小さなことが積み重なり、中学生でいじめや不登校が起きる可能性が高い。いじめにおいても小学校、中学校の連携が非常に重要であると考えている。

◎手短にまとめると、今回のいじめの裁判を教訓に、管理職にはいじめの捉え方については承知してもらった。ただ、学校の教員の中には、いじめの捉え方がまちまちな部分がある。

国も「いじめ防止基本方針」を見直しているので、教育委員会の方でも、教育委員会としてのいじめ防止と基本的な方針を見直していきたいと考えている。いじめの定義では、喧嘩は除くとなっているが、喧嘩は、背景にいじめがあるのではないかという捉え方をしなければいけないし、いじめが解消した後も、3か月、6か月と継続して見ていかなければならない。そういったことも新たに徹底していきたいと考えている。また、自殺が一番心配されるので、いじめを受けた場合やいじめを見た場合に子ども達自身が対処できる力を身に付けなければいけない。そのようなことも考えている。また、コミュニティスクールの方は、今年、来年と、研究を行い、3年後にはモデル校を作って実施できればいいかなと考えている。

●いろいろ皆様方から貴重なご意見をいただいた。本日いただいたご意見は今後の本市の教育行政を進める上で、参考にさせていただきたい。

4 その他

なし

5 閉会